

製品名: HSP70(3G10)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM12254**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	HSPA1L/HSPA1A
別名	
遺伝子 ID	3305/3303/3304
SwissProt ID	P34931/P08107
免疫原	HSP70 の合成ペプチド

背景

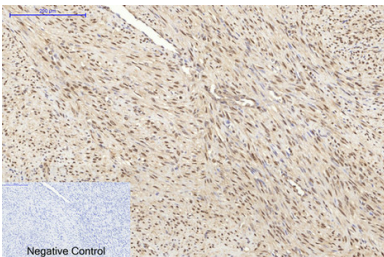
この遺伝子は 70kDa の熱ショックタンパク質をコードしています。他の熱ショックタンパク質と連携して、このタンパク質は既存の

タンパク質の凝集を抑制し、細胞質および細胞小器官において新たに翻訳されたタンパク質のフォールディングを媒介します。この遺伝子は、主要組織適合遺伝子複合体クラス III 領域に位置し、70kDa 熱ショックタンパク質のアイソフォームをコードする 2 つの密接に関連した遺伝子と同一のクラスターを形成しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: Hsp70 は他のシャペロンと連携して、既存のタンパク質の凝集を抑制し、細胞質および細胞小器官において新たに翻訳されたポリペプチドのフォールディングを媒介します。これらのシャペロンは、他のタンパク質の非ネイティブな構造を認識する能力を通じて、これらすべてのプロセスに関与しています。これらは、翻訳および膜移行中、またはストレス誘発性損傷後にポリペプチドによって露出された、正味の疎水性特性を持つ拡張ペプチドセグメントに結合します。誘導:熱ショックによって誘導されません。類似性:熱ショックタンパク質 70 ファミリーに属します。組織特異性:精子細胞で発現します。、

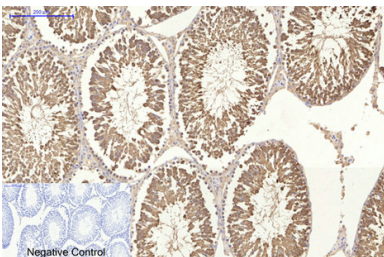
研究分野

スプライソソーム;MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;エンドサイトーシス;抗原の処理と提示;

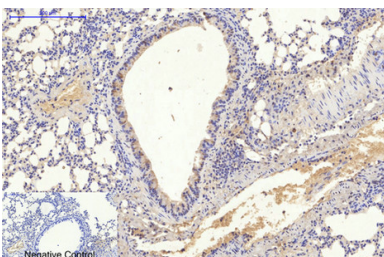
画像データ



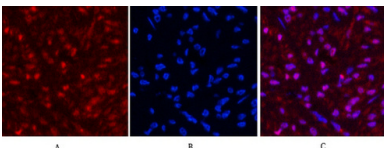
パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. HSP70 モノクローナル抗体 (3G10) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



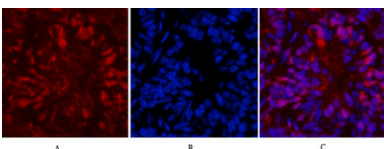
パラフィン包埋ラット精巣組織の免疫組織化学染色。1. HSP70 モノクローナル抗体 (3G10) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



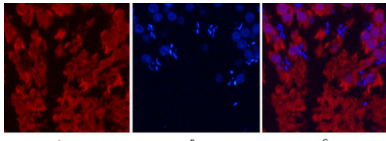
パラフィン包埋マウス肺組織の免疫組織化学染色。1. HSP70 モノクローナル抗体 (3G10) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



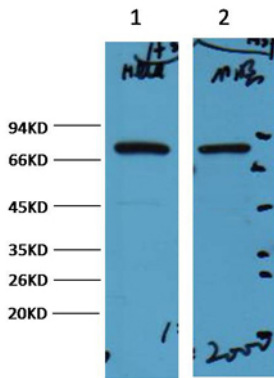
ヒト乳がん組織の免疫蛍光染色。1, HSP70 モノクローナル抗体 (3G10) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



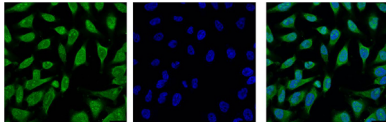
マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, HSP70 モノクローナル抗体 (3G10) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



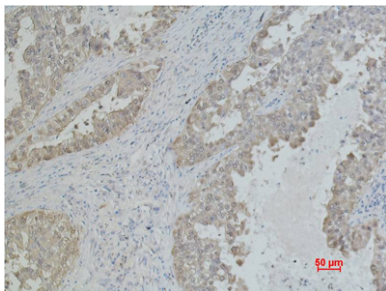
ラット精巣組織の免疫蛍光染色。1, HSP70 モノクローナル抗体 (3G10) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



1) Hela、2) マウス脳 (1:2000 希釈) のウエスタンブロット分析。



抗体 (左) と DAPI (右) を 1:100 に希釈した HeLa の IF 分析。



1:500 に希釈したマウス mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析。